

質問

48億3,000万円に増額された学校建設の見解はいかに



角谷 勉

【答】 弁 憂慮している。今後は説明不足を解消する

問 38億円です。スタートした学校建設が、10億3000万円増額され48億3000万円となった。多くの町民が理解を示してない

答 少しでも早く広報等で伝えていると考える。補正予算の議決事項は広報で伝える準備をしている。38億円が48億円になったことは憂慮している。説明不足はあったと思うが、今後は解消することを約束する。



建設中の湯沢学園

質問

教育委員会の意見書に回答を

【答】 弁 内部で協議し、答えを出す

問 教育委員会から、意見書（3点）が出された。① 契約時の協議内容及び工期の遅れの理由を、文書で提出して欲しい。② 工期延長の費用は、町民も理解できないので、施工業者で負担することを強く願う。③ 町民への説明責任が

発生する、決められた経費で執行して欲しい。9000万円増額の11月臨時議会で執行部は「回答するつもりはない」と答えた。教育行政法第29条に「地方公共団体の長は、教育に関する事務について議会の議決を経る場合、教育委員会の意見を聞かなければならない」、第27条には「教育委員会は、毎年、事務の執行状況の評価を行い、報告書を作成し、議会に提出し、公表しなければならぬ」と定められている。どのような契約が結ばれ、なぜ工期延長の経費がすべて町の責任なのか、今後は事業費がいくらになるのか、教育委員会に回答すべきでは。

答 「回答しない」ことは行政のやり取りの中で判断したと思う。予算や事業を説明し、議会の議

決を受けていることは尊重する。「回答は」内部で協議し答えを出す。

質問

具体的施策と事業工程の公表はいつか

【答】 弁 今後検討し対処する

問 8つの基本政策について事業工程を作ると公約した。具体的な施策と事業工程の公表はいつか。

答 第一に役場力の強化に取り組む。具体的な施策は今後検討する。

質問

各地域の具体的観光振興策は

【答】 弁 観光施設の予算付けを続ける

問 「500万人観光回復」をあげ、「各地域の魅力を観光商品として価値を高めるため観光施設の整備強化等、町が先頭に立って民間と共に進めていく」と公約した。地域の方々は観光振興のために、労を惜しまない。湯沢・神立、土樽エリアの観光振興策はいかに。

また、「元気のでる観光推進事業」等で地域を支援しているが具体的な支援策はいかに。

答 温泉通りの活性化に町が前面に出て取り組む。ホテルの里、カタクリの里は観光商品として湯沢町全体に貢献している。元気な観光地づくりのため予算付けを続けていく。